

「野外体験保育」に取り組んでいます

市では、子どもたちが鳥羽の自然の中で健やかに成長していくことを目指し、自然体験を取り入れた保育を進めています。

健康福祉課子育て支援室 ☎ (25)1184

野外体験保育とは

野外体験保育は、野外を中心に、地域の自然を活用する体験活動を取り入れた保育や幼児教育のことです。

幼児期の自然体験は、子どもの知的好奇心や感性を豊かに育み、社会性、自尊心、自己肯定感の向上が期待されるといわれています。平成27年度に三重県が行った野外体験保育有効性調査においても、野外体験保育の実施頻度が高い保育施設ほど、多くの園児に「自分からすすんで何でもやる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が多くみられ、野外体験保育をすることで子どもたちに自主性や思いやりなど好ましい効果があることが分かりました。

また、野外体験保育により育まれることが期待される「健康な心と体」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「豊かな感性と表現」といったことは、国が定めている保育指針の中でも「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として挙げられています。

これまでの取り組み

平成29年度に、三重県が実施する野外体験保育アドバイザー派遣事業を活用し、かもめ幼稚園と神島保育所で野外体験保育を取り入れました。

その中で、友だちと協力し合って取り組んだり、頑張つてやり抜こうとしたり、これ



こり古里の浜で遊ぶ様子(神島保育所)



安楽島海岸で磯遊び(かもめ幼稚園)

までと違う子どもたちの姿がみられるようになり、保護者のかたからも「家に帰ってから、楽しかったでござい」といきいきと話してくれた」と子どもたちの成長を喜ぶ声をいただきました。



三重県少子化対策課
主幹 野村えみ子さん

三重県では少子化対策の一環として、豊かな自然を活用した子どもの「生き抜いていく力」を育む「野外体験保育」を普及・啓発しており、その一環として、専門知識やノウハウを持つアドバイザーを派遣する事業を行っています。

豊かな自然に恵まれた鳥羽市は、活動のフィールドとして最適な地域だと感じています。子どもたちが地域に愛着を持ち、鳥羽市の自然を活用したさまざまな自然体験を通して生き抜いていく力を育んでいくことを願っています。

野外体験保育の取り組みを紹介します

本年度は、かがみうら保育所が三重県の野外体験保育アドバイザー派遣事業の採択を受けました。海でも山でも活動が可能な地域の特性を活かし、三重県事業以外の独自の取り組みも行いながら、野外体験保育を重点的に進めます。

市独自事業 七夕の竹を取りに行こう！

7月1日、小雨が降る天気でしたが、子どもたちはボランティアのかたに教えてもらいながら、のこぎりをを使って自分たちで七夕用の竹を切り、保育所に持ち帰りました。



手伝ってもらいながら竹の枝を切りました



のこぎりを上手にを使って竹を切りました



切った竹の枝を七夕用に持ち帰りました

三重県事業 アドバイザーと山あそび

7月3日、菰野町の自然体験教室「森の風しぜん学校」校長の^{かなりえいじ}嘉成永慈先生と一緒に山林で遊びました。

みんなで協力して竹のゲートを作ったり、のぼり棒をしたり、竹を割ったお弁当箱でままごとをしたりと楽しいひとときを過ごしました。



竹を縦に割ってお弁当箱を作りました



しっかりつかまって上手に登りました



竹を並べて滑り台にして遊びました

木に親しみながら、自然への関心を高める 「木育」にも取り組んでいます

7月1日に実施した事業では、県内で森林づくりに携わっているかたなどにボランティアで来ていただき、森と海のつながりや、森が荒れている現状と森林整備の大切さを分かりやすく教えていただきました。

また、お話の後には、子どもたちが楽しみながら自然環境に興味を持てるように、間伐材からつくった木のおもちゃで遊ぶ「木育教室」も行いました。

今後は、ほかの保育所にも来ていただき、子どもたちが自然について学ぶ機会を作っていく予定です。



森と海の話をしてもらいました



木製ボールのプールで遊びました



木のおもちゃで遊びました